

			明和町できごと	小社遺跡と周辺のできごと
34000 年前	旧石器	後期	南部の丘陵地でナイフ形石器や尖頭器を使った狩猟が行われる	狩猟の場であり、キャンプ地のような狩猟の一時的な拠点があった。ナイフ形石器や石刃、石器を作る際にでる剥片が出土している。 北野遺跡へべら地区では多くの石器類が出土
13000 年前		草創期		
7000 年前	縄文時代	早期	砂堆上の西浦遺跡に縄文人の活動が見られる	遺構は認められず、生活の拠点ではなかったと考えられる。しかし石鏃が出土していることから狩猟の場であったことがわかる
		前期		
中期				
後期				
3000 年前		晩期		
2300 年前	弥生時代	前期	金剛坂遺跡で環壕集落が造られ、稲作が行われる	竪穴建物が2基確認された。遺物等から後期の集落があったと推定できる 仲畑遺跡の調査で石包丁が見つかっており、稲作を行っていたことがわかる
中期				
後期				
1700 年前	古墳時代	前期	高塚1号墳が造られる 南部丘陵で群集墳が造られる 坂本1号墳が造られる	古墳群が造られる。調査では3基の埋没墳が確認できた。出土した須恵器から6世紀と推定される 南に西ノ野古墳が残されている
1600 年前		中期		
1500 年前		後期		
1400 年前	古代	飛鳥時代	673 斎王制度が始まる（大来皇女が派遣される）	土師器焼成坑が造られる 竪穴建物が4基確認され土師器生産を行う集団が生活していた場所であったと考えられる
1300 年前		奈良時代	水池土器製作遺跡などで土師器が生産される	
1200 年前		平安時代	方格地割が整備され、斎宮が最も栄える	
1000 年前	中世	鎌倉時代	1297 安養寺が創建される	土坑に甕などが埋められた
800 年前		南北朝時代	1336 斎王制度が終わる	
600 年前		室町時代	有爾郷で御器長を中心に土師器を生産する	
500 年前		戦国時代		
400 年前		安土桃山時代	伊勢街道が整備される	
		江戸時代		
	近世			溝が何条もめぐらされる。農地として利用されていた可能性がある

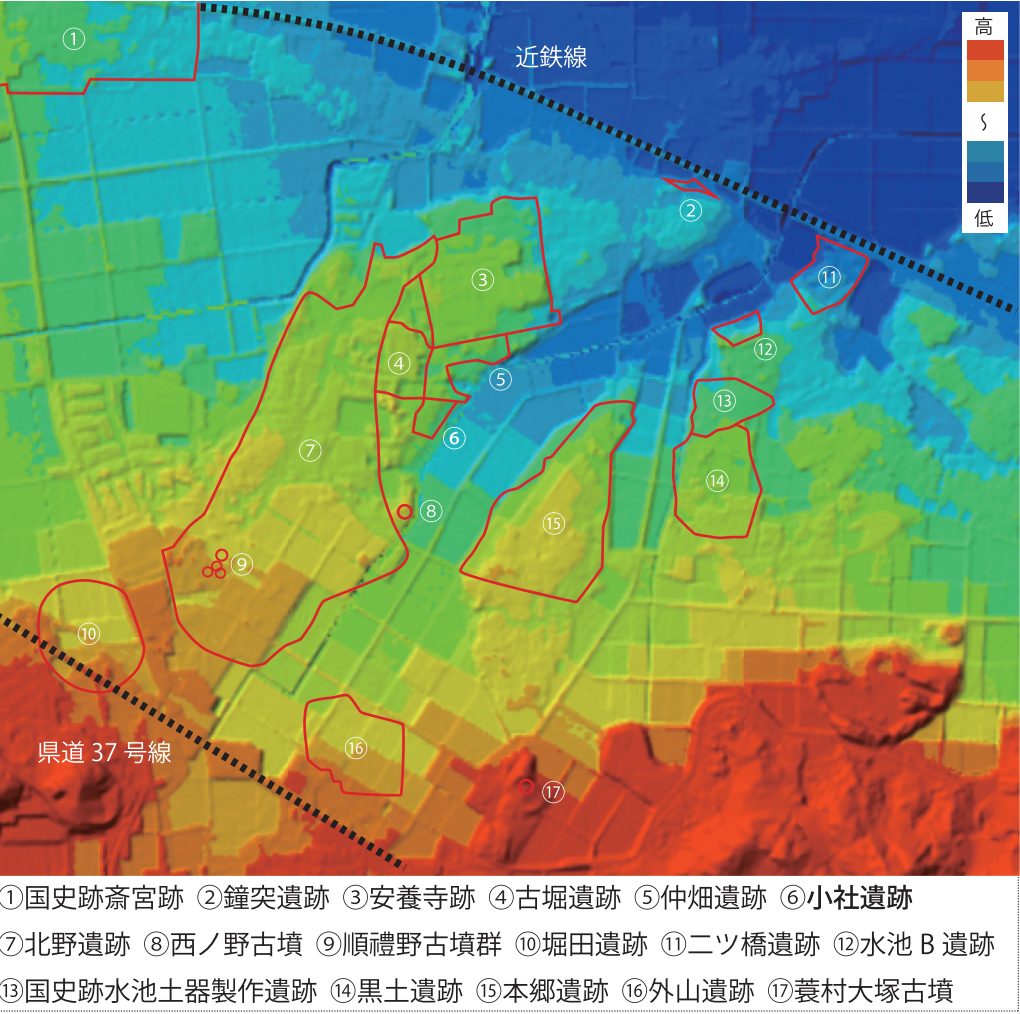
明和町文化財解説シート

こやしろ

新発見

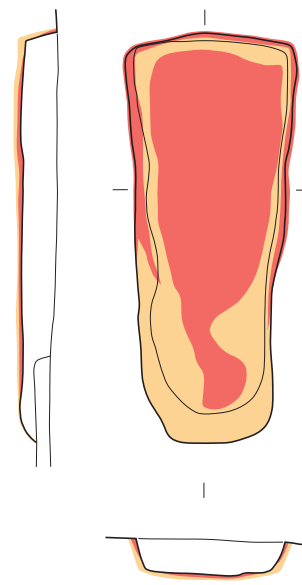
小社遺跡と明和町の歴史

令和6年12月9日から令和7年4月25日にわたり上野地内で宅地開発に伴う発掘調査を実施しました。この場所はこれまで遺跡として登録されていませんでしたが、今回の調査により古墳時代から近世にかけての遺構や、それよりさらに古い時代の遺物も多く発見されました。土地の字名から「小社（こやしろ）遺跡」として新たな遺跡の発見となりました。小社遺跡の調査によって新たな古墳群の発見、弥生時代の生活の痕跡、古代における土師器生産の痕跡など明和町内の歴史を語る上で重要といえる発見が多くありました。



〈小社遺跡周辺の遺跡 ー北野遺跡と仲畑遺跡の調査ー〉

小社遺跡の西側には北野遺跡があります。北野遺跡では過去の発掘調査で主に飛鳥時代～奈良時代頃の掘立柱建物や竪穴建物、土師器焼成坑が多く見つかっています。このことから北野遺跡は斎宮や神宮といった場所で使用される土師器の生産地であることがわかっています。令和5年度には開発事業に伴う試掘調査が明和町により実施しました。この調査でも飛鳥時代～奈良時代の竪穴建物3棟、土師器焼成坑6基などが確認され、台地上西側でも土師器生産が行われていたことが確認できました。小社遺跡の北に隣接する仲畑遺跡では平成24年度に道路開発に伴う調査が行われました。弥生時代の遺物のほか、奈良時代の土師器焼成坑1基が確認できました。



土師器焼成坑 1

〈土師器焼成坑〉

古代に使用された土器である土師器を焼いた窯「土師器焼成坑」が2基発見されました。1基は半分ほど壊されていましたが、もう一基は全体のプランが確認できました。

一般的な二等辺三角形を呈しており、奥壁、側壁は直線的な形をしています。

長軸：約4.4m 短軸：約2.2m 深さ：約0.48m

被熱
強い被熱

1 m (1/50)



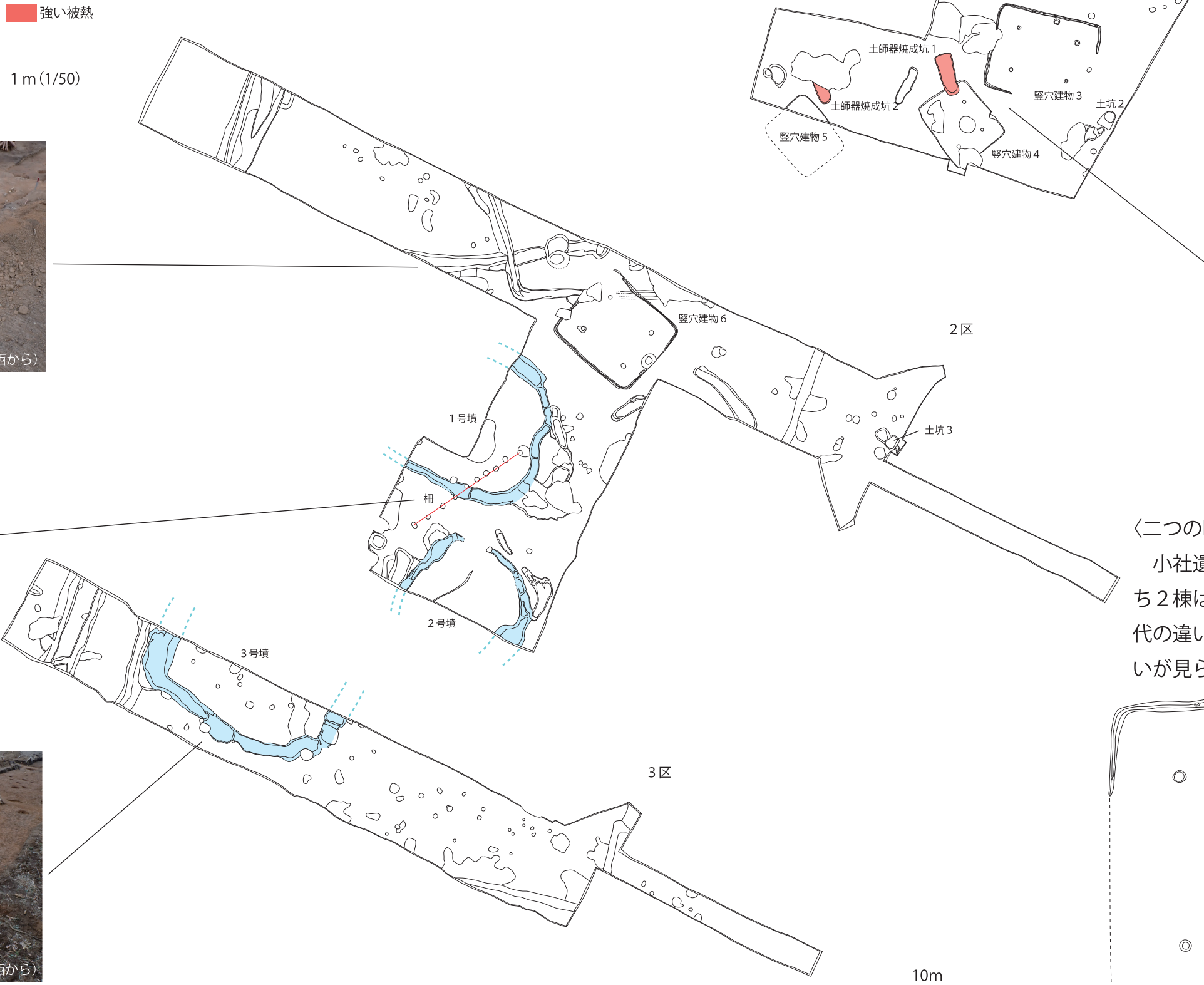
溝（西から）



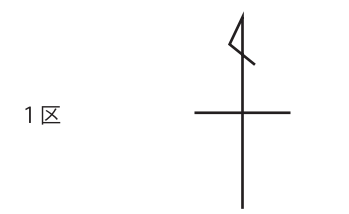
柵（南西から）



3号墳（西から）



10m
(1/300)



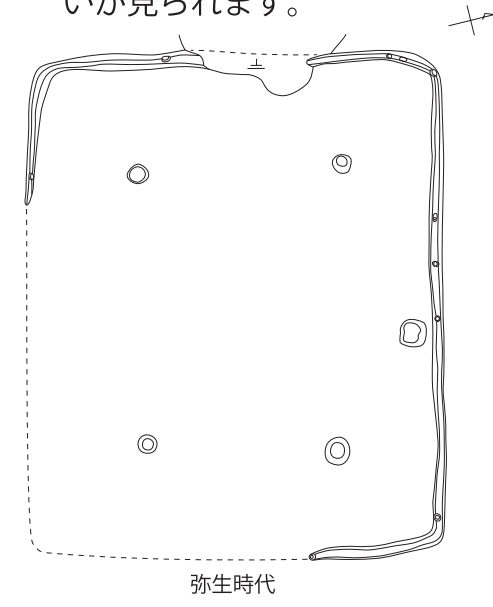
竪穴建物 1	奈良時代
竪穴建物 2	奈良時代
竪穴建物 3	弥生時代
竪穴建物 4	奈良時代
竪穴建物 5	奈良時代
竪穴建物 6	弥生時代
土師器焼成坑 1	奈良時代
土師器焼成坑 2	奈良時代
土坑 1	奈良時代
土坑 2	奈良時代
土坑 3	平安時代
1号墳	古墳時代
2号墳	古墳時代
3号墳	古墳時代



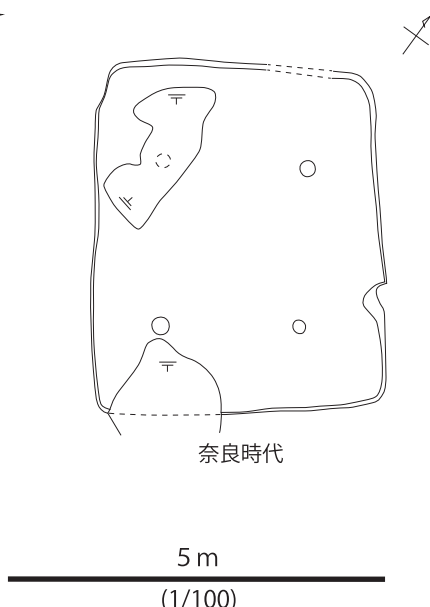
西から

〈二つの時代の竪穴建物〉

小社遺跡の調査では6棟の竪穴建物が確認され、このうち2棟は弥生時代後期、4棟は奈良時代のものでした。時代の違いによって、建物の大きさや構造にはいくつかの違いが見られます。



弥生時代



奈良時代